

(議長)

次に横山議員の発言を許可いたします。

「横山議員」

「横山議員」

では質問させていただきます。第1問目質問事項はJR廃止、新幹線の延伸に伴う江差町サイドの対応についてという事です。

表記の件はまあ色々もう時間が大変迫っております。江差線の木古内からの廃止はこれはもう来年度5月を予定されているという事でございます。新幹線については平成26年の春の予定、ここに私北斗市で貰ってきたティッシュには北斗市開業2015年とこう書いてありますが。まだ曜日というか日程はまだ正確には決まっていないという話しは聞いております。しかしいずれにしても時間がもう迫っている、そして確実にそれがそういう状況になるという事は決まっております。ですから、江差町としては、それに対応した事を近隣町、振興局や運輸機関、商工会、民間などとも共同して適宜にスピーディにプロジェクトを組んででも対応すべきじゃないかという趣旨がまずこの第1点でございしますが、その点はどのようになっておりますでしょうか。

(議長)

「町 長」

「町 長」

横山議員の1問目ですが、来年5月に予定されているJR江差線の廃止に伴い、現在鉄道ファンを始めとした多くの方々が本町を訪れており、これらをターゲットとして各種のソフト事業を展開する事は先の臨時会に配布した資料や新聞報道等でご案内の事と存じます。一方、開業まで1,000日を切った北海道新幹線に関する対応につきましては、その間木古内町を中心とした新幹線木古内駅活用推進協議会に参加をしながら渡島半島西部9町と連携を図り、二次交通対策や新たな商品観光商品の開発に努めてきた所であります。

また本年の7月には檜山振興局が中心となり、檜山の新幹線観光を考える会を発足した所であります。会の構成は檜山管内7町プラス各町の商工会、観光協会が主要メンバーとなり、またオブザーバーとしてJR北海道や函館バス株式会社、ハートランドフェリー株式会社等の運輸機関。更には江差信用金庫や、北洋銀行江差支店などの地元金融機関を含め資料にもお示しの通り、オール檜山で新幹線対応に関する体制が構築されて進められており、かつてないだけのプロジェクトチームを構成してございます。事業内容はPR、PRポスターやDVD

の制作の他、檜山づくし弁当の開発、観光プロモーションの実施など戦略的に事業を展開する予定でございます。町といたしましてはこれらの公益的な取り組みを踏まえつつ、しっかりと新幹線開業に関する準備を行って参りたいと考えておりますのでご理解のほどをお願い申し上げます。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

今町長が説明された事よく理解いたします。そしてそれについては資料請求でもいたしまして議員の各位にも同じように資料が渡っております。それは町のホームページにも載っている事で一般町民の方も気が付かれた方は見られていると思いますが、中々そこまではいっていない恐れが大きいかと思います。

そこで、地域再生プロジェクト調書、これ色々とよく計画が練られていると思います。25年度26年度に渡ったものもあります。それで各所の今町長おっしゃったような事がよくされていますが、ではこれで果たして江差線、木古内からこちらへの江差線の廃止、あるいは渡島の新駅への開業予定にまあ期限の切られた開業予定に合わせて十分な対応であるのかどうか。

これ随分とあのもっともときめ細かくも、そしてまあ具体的には色んな施設に絡む事もあると思います。施設の設備などにこちらの方から積極的に注文を出したり、要望を出したりしていかなきゃならないと思います。これは単に江差町だけではなくて先ほど町長もおっしゃったように檜山地域あるいは商工会、観光協会なども併せての対応だと思いますが、それが適宜になら、時限切られている事ですから、スピーディにされなければ一番心配しているのはここがいわば陸の孤島化、その線がなくなる事によってJR関係線がなくなる事によって陸の孤島化になるのではないかという心配が大いにある訳です。この地域再生プロジェクトのこの実施計画大変よくやられていると思いますが、まあこれ以外はどのようなになっているのか。その辺の計画をどのようにされているか、発表して頂ければと思います。

(議長)

「迫分商工観光課長」

「迫分商工観光課長」

はい。今ご指摘ありましたけれども実はJR江差線の対策の部分につきましては資料で提供させて頂きましたが、今町長の方からの答弁あった通り、檜山全

体でのオール檜山の取り組みという事で檜山の新幹線観光を考える会というものがあったりですね。それから事業の中でありますけれども「来てネット」というような、町民の方がこぞって集まって頂きながらおおむね月1回程度開催をしておりますが、新幹線開業に向けての色々なご意見を頂戴したりというような事もしております。また併せてお客さんをいかに江差に誘導するかというような事を含めた市街地活性化推進のプロジェクトも実施しております。このようなものを全て総合しながら、誘客に努めて行きたいという風に思っております。ご理解ください。

(議長)

はい「横山議員」

「横山議員」

はい。今担当課の方からあの説明がございましたが、それらは具体的な事はあの示されておられません。

具体的な事がどのようなになっているのかまあ話しにも色々事前に聞く所によるとまあ予算化されていない、あるいは議会の承認も得ていないとかそのような問題は確かにあると思います。それはいわば役所の論理でありまして。それを限られた時限の切られた事業としてそれまでにはこういう事をやってこういう風になりますから、こうこうなりますあるいは駅、空港なども、そのバス会社とのアクセスなども含めてこうなります。そのインターネットも含めてこうなるという事で、ですからちゃんと今後こういうスケジュールで対応していますというような事がされるべきではないかという風に思うのですが、その辺について具体的な項目、列挙あるいはそういう打ち合わせなど準備が進んでいるのかどうか。非常に時間が短いという事でその辺をスピーディにやるべきだという事でまあ一番最初にここに出しましたように、特別な庁内に役場庁内に置いても、プロジェクトチームでも組んで対応すべきではないか。それだけ重要な問題であるという事を指摘したいと思いますがその点についてはどんな風に考えますでしょうか。

(議長)

はい「追分商工観光課長」

「追分商工観光課長」

今庁舎内にも、プロジェクトチームというような形で、開催しているという事で先ほど少し報告させて貰いました。市街地活性化推進委員会というのはま

さしく庁舎内の関係課長が集まりまして、江差に観光客をいかに誘導するのか。この中心になっているのが開陽丸周辺の賑わいというものをメインとしておりますが、あくまでも新幹線開業を睨みながらという事で取り組みをさせて頂いているという事でございます。

それ以外まったく予算がついてないということではなくて、町単独の予算も700万程度つけながら今年度も取り組みをしております。先ほど紹介させて頂きましたプロジェクトこれにつきましては、町の予算ではございませんがJR江差線が廃線に伴う事業といたしましてこの中にも新幹線開業に向けた取り組みをしております。こちらにつきましては2カ年で1,000万の予算をつけながら事業取り組みしておりますし、現実もう実施されて終わっている事業もでございます。項目見て頂くと分かると思いますので1項目ずつは言いませんが、このような取り組みを現実、歩み出しているという事でございますのでご理解頂きたいと思います。

(議長)

はい。次これ1番目の質問、今度2番目の質問。

「横山議員」

「横山議員」

はい、では2問目に移らせて頂きます。全国小中学生学力テストについてでございます。過日8月28日これは道新さんですが、発表されました学力テストの結果について全国平均というものが発表されております。それを見ますと誠に残念ながら北海道は小学校6年生については下から3番目の45位、それから中学3年については37、38番目という具合で決して全国平均に近づいているとかあるいは高いという状況ではありません。

これは学力テストをやりましてこれは基礎的なものを見る事だそうですが、そういう事で見るとこの北海道の中で北海道は比較的低い位置にある。そんな中で江差町はどのようになっているかという事がありますが、これについては色々な問題があるので発表されないという事は理解しています。学校別も当然ながら江差町全体でもどうなっているかという事は発表されないという事はこれ理解している、過度な競争を生まない為にという趣旨があるという事ですが。そうなのですが、しかし各学校では自分の学校のあれはどのような状態にあるのかというのは掴んでいらっしゃる事だろうと思います、それが当然教育委員会にも報告が来ている事だと思います、基礎学力これはしっかり高いに越した事はないのです。それをやはり上げるように生徒の為に上げるように教育委員会あるいは学校当局が努力するのは当然の事だと思うのですがどのような

対応を取られているのかお知らせ願いたいと思います。

(議長)

「教育長」

「教育長」

全国学力学習状況調査いわゆる学力テストに関する質問でございますが。学力テストはご承知の通り小学校の6年生と中学校の3年生を対象として実施されているものでございます。今年度の全国の結果、今横山議員がおっしゃったような部分過日新聞報道されていた所でございます。北海道は小学校中学校とも全国平均を下回っている状況という事が明らかになりました。

私共江差町はその年にもよりますけれども、全体的にはA問題はいいのですがB問題に課題があるという全道的な傾向とほぼ同様でございます。時には全国をはるかに超える学校も出ますけれども、1年出たからといって何年も継続するという所でもありませんし、色々課題を持っております。

これらの結果を踏まえまして北海道教育委員会では平成26年に全国平均以上を目指して様々な取り組みをいたしている所でございます。議員ご質問の江差町内の小中学校の対応策は検討されているのかというような事でございますが、私共教育委員会では学力が、テストが始まった年から結果の分析を踏まえての取り組みを指導するなど、対策を講じてございます。

また、江差町基礎学力向上対策会議というものを設置し、各学校の取り組みについて意見交換をすると共に、長期休業中の補習授業、夏休み冬休みや、北海道教育委員会が提案しているチャレンジテストの実施、あるいは各学校における振り返りテストや、数学検定などに加えて家庭に対する学習の手引きをつくるなど、各学校独自の取り組みを支援しながら学力の向上に努めて参った所でございます。

今後におきましても議員ご指摘の通り、児童生徒への基礎学力の定着、あるいは向上というのは学校として取り組む第一歩であり、教育委員会としても各学校と共に取り組みの強化を図りながら生きる力を育む為の学力向上に努めて参りたいとこのように考えておりますのでご理解頂きたいと思います。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

よろしく申し上げます。では3問目に移ります。

(議長)

3 問目。

「横山議員」

中学校研修旅行に対する情報提供についてという事ですね。これはちょうど今時期なのですが、函館渡島管内のほとんどの中学校の研修旅行が江差町に来ております。教育に繋がる的確な情報提供が、効果的研修成果を上げる事に繋がるのではないかと思います。そしてそれは江差町にも良い印象を持って貰ったり、江差町をよく理解して貰う為に必要な事であると思います。

どうも見てみますと各学校さんによるのですが、色々な研修手帳のようなものを作り、各学校が独自に作りまして持ってきているのですが、まあ時間も非常に限られた、恐らく3時間から3時間半くらいしか江差町に在留していないのですが、せつかく来ているのにどうかなとこのような事で研修の成果が上がるのかなという事は非常に疑問に思う所が多々あります。

そして、それは決してせつかく江差町を選んで来て貰うというのは大変渡島管内、函館渡島管内につきましては多いわけですが。それは江差町はそれだけ色々なものがある、施設、歴史もある色々な学生の教育的な効果が上がるものもある。それから時間的にも大変函館から1時間半なりせいぜい2時間ぐらいの範囲であるという事。そして町もコンパクトになっていますから、どこかこの役場、追分会館裏あるいは開陽丸の方面の駐車場にバスを留めたり、あるいはそこを集合場所にしてやるには非常に良い地区になっていると思います。まあ色々な歴史的なもので言えば例えば松前町あるいは上ノ国町などもあります。色々な事の集積の度合いがこちらの方が違います。

そして江差の方が大変学生にとっても学校にとっても来やすいようになっているのですが、それぞれの担任の先生なり教科の担任であり学年担任の先生達が色々工夫されているとは思いますが、作られている資料などを見るとこんなものでいいのか。教育効果が上がるのかどうかと不思議に思う事が沢山疑問に思う事があります。そして、それは決して江差町の為にもならない、それからまして研修に来ている学生にも生徒達にもなれていないというように思いますので、その成果を上げるべくこちらの方から色々な資料提供はもとよりそれは単に観光パンフレットやそういうものだけではなくて、その中学生なりに、ほとんど中学2年です。それに合わせた学力なりその年度に合わせたものに対してこちらの方から江差町の資料を作り、例えば問題によってはQ&Aなども作り、それを提供する事によって江差町がより良く理解される、そしてそれは研修に来た生徒にも理解される事に繋がるのではないかなと思います。単に町に来

てそれぞれ見ていった特に、判子だけ押して満足して帰るような生徒が多いのは誠に勿体ない事だと思うものですから、それを是非やって頂きたいと。それをやる事によって江差が大変歴史のあるそして個性のある町であるという事を理解して貰う、これは非常に重要な事じゃないかと思うものですからこういう事に考えついて町のご意見をお伺いしたいという事でございます。

(議長)

「町 長」

「町 長」

横山議員の修学旅行生に対するご質問であります。まあ他の町の事とか来町されている学校の件については、教育内容の件について私からとやかく言える筋合いではありません。本町にはご案内の通り有形無形の文化財を含めて、歴史的文化的な教育素材が多く残されており、これらの教育的な素材を求めて平成24年度には中学校を中心とした30校、おおよそ3,000人を超える多くの研修生が本町を訪れて来て貰っております。これらの教育環境の実績は、年々増加傾向にあり、この間の道南や道央圏、東北圏域への学校訪問やエージェントへの情報提供等関係機関と連携を図りながら、着実に取り組んできた結果が実を結んでいるものと考えている所でございます。

一方、受け入れ態勢といたしましてはこれまでも観光コンベンション協会やボランティアガイド協会等々の連携の他、学芸員や各観光施設職員と情報を共有しながら対応を行って来ている所であります。本年の8月には来町された生徒を対象に文化会館の大ホールを活用し、江差追分の披露や町の歴史や文化などについて事前学習を行う等、それぞれの学校のニーズに沿ったサービス提供も行っている所であります。本町の特性や、優位性を生かした新たな観光商品として期待している所でございます。当町の特性である歴史や文化教育に特徴を持つ個性ある町づくりを視野に入れた取り組みを実践する所であります。今後もより一層のサービスの充実とより多くの学習機会の提供を目指す教育観光の推進に努めて参りたいと考えている所であります。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

わかりました。これは町長からお答え頂きましたので、まあいわゆる観光政策の一環というような理解、あるいは学校の問題も勿論ありますが、まあ凄く

感じられまして。それはそれで1つ重要な事でございますから、結構な事なのですが。

先ほど申しました、各校へのというのは各学校は、担任の先生なり学年担当の先生などが、毎年変わる訳です。ほとんど毎年のように変わる訳です。ですからその人達への情報提供、それをまあ毎年のようにでもやって、そしてそれを具体的な事を単に観光パンフレットを作ったりするだけじゃなくて、先ほども言いましたがもっと Q&A のように学校で使える資料、それから中学2年生で使えるような資料。そういうものを検討してこちらの方から情報を提供してやるという事は、大変江差町にとってもメリットがあります。それから何よりもそれを実施する所の学校、あるいは生徒さんもメリットがあるはずですからそこをやる予定なり考え方なりはどうかという事をもう一度聞きたいと思います。

(議長)

「追分商工観光課長」

「追分商工観光課長」

ある意味画一した Q&A のようなものを作ったらどうかというご提案だと思います。現在の所私達の方ではそのようなものを制作するという考えはございません。

なぜかと言いますと江差町を訪れて頂いている学校につきましては学校それぞれが違う目的、研修目的を持って入って来ているという風に私達も感じております。ほとんどの中学校が参加生徒を少人数に分けながらテーマを絞って5、6人のグループに分けて各施設を訪れるというような状況が見えております。今後も各学校のニーズには出来るだけ沿った形で、対応して行きたいという風に思っています。

本年度実施した中では教育委員会の職員も、付いて頂きながら文化会館の大ホールを使って、歴史だとか追分、民謡の披露をしたり、前学習をしたりというような事をしながらその後また各施設に、それぞれがバラバラに行動していると。子供達がバラバラに行動しているというような状況ございますので、これを敢えて画一的な資料を作りながらそれに沿ってやりなさいというような事ではなく、学校のニーズに出来るだけ答えた取り組みにして行きたいという風に考えております、以上でございます。

(議長)

はい、「横山議員」

「横山議員」

少し担当課は私の趣旨を誤解しているように、間違っ理解しているように思います。決して画一、固定的な Q&A なりだけを作ってやればいいという風には私は考えません。各学校色々な角度からされます。先ほどの例えば文化会館などでやられたケースは、これは何校あったのでしょうか。それは大変良い進め方だと私は評価します、そういう学校は。しかしそういう学校は非常に少ない。ほとんど私は直接は聞いていない、何校もなかったはずで。ですから各学校が今班ごとに分けてやられていますが、それを今やられているだけに、その生徒がもっぱらその回る経路をこなすといえますか。回る経路を何時何分にそこへ行くのだというようなスケジュールで追われているような風にも見えますので、こちらの方はもっといわゆる決して画一的な Q&A なりだけでなく、もっと学校でそれを使って材料に出来る方策、方式で提供したらどうですかという事を言っている訳です。私はこれはさっきから追分商工観光課長答弁されていますが、私はむしろこれは学校教育に関係する事ですからその担当の方からの考えも出されてはどうかと思います。いかがですか。

(議長)

「社会教育課長」

「社会教育課長」

はい、ただいまのご質問でございますけれども、先ほど大杉課長が申しましたように研修内容の方につきましては、学校それぞれの考え方がございます。それはやはり尊重しなければならないという事もございまして、議員がおっしゃいますように情報提供やるという事につきましてはあのやぶさかな部分ではございませんけれども、求めに応じられた内容、研修内容の資料提供という事につきましては、今までも教育委員会サイドとしてやってきてございますし、現地への説明等につきましても当然行っているという状況で。求めに応じた対応はさせて頂いているという事で今後もそのような考え方でやって参りたいなと考えてございます、以上でございます。

(議長)

以上で横山議員の一般質問を終わります。